HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	ルポ『ソロモン諸島 : 戦跡によりそう人々』 : 2022年度執筆活動報告
Author(s)	成田, 吉希; 川本, 思心
Citation	CoSTEP研修科 年次報告書, 7(1), 1-4
Issue Date	2023-04-14
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/88994
Type	report
File Information	NeXTEPreport_2023-4-14_Narita.pdf

Instructions for use

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

ルポ『ソロモン諸島 ～戦跡によりそう人々～』
2022 年度執筆活動報告

成田 吉希（2 年目）

2023 年 4 月 14 日

担当教員：川本 思心

目的と背景

2022 年度は CoSTEP 研修科 2 年目として、前年度に整理したデータや執筆方針（成田 2022）をもとに、ソロモン諸島の戦いの戦跡とその傍で生活する現地の人々に関するルポの執筆に取り組んだ。ルポの作成には、現地の空気感や当時感じていたことを残して自身の考えを整理し、結果として同地に関心を持つ人が少しでも増やすことができればと思い取り組んでいる。本報告書では、こうした目的にも照らし合わせて 1 年間の活動を振り返った。これにより、完成に向けて見通しを立てて、スパートをかけるきっかけとしたい。

報告書構成

本報告書では、1 章「年間スケジュール」で 1 年間の活動を整理し、2 章「活動内容」にて活動結果について振り返った。また、最後の 3 章「まとめと展望」では、まだ手をつけることができていない項目を簡単に整理し、もし次年度にて CoSTEP 研修科 3 年目が認められた際の展望を記した。

1.　年間スケジュール

以下の活動を行なった（表 1）。なお、科学技術コミュニケーション研究室川本グループのゼミ及び大学院授業科学技術史特論では、担当以外の発表にも参加している。

表 1　2022 年度活動概要

ゼミ	活動内容
前期	2022/5/20（金）　研究ゼミ・自己紹介
	6/3（金）　ルポの内容紹介
	6/30（木）　第 3 章「ビル村戦争博物館とシルビアさん」推敲
	7/6（水）　科学技術史特論[1]　輪読担当
	7/28（木）　第 2 章「遺骨調査団と現地協力者」推敲
後期	10/14（金）　第 4 章「マタニコ川流域アドベンチャー」推敲
	11/4（金）　第 5 章「ツラギ島の戦争遺産と水先案内人」推敲
	中間発表の発表資料の検討
	11/19（土）　研修科中間報告会
	2023/1/27（金）　第 7 章「不発弾がそばにあるということ」推敲
	3/5（土）　修了式研修科ポスターセッション

[1] 前期大学院授業。担当教員は川本。週に 1 度の授業にオンラインで参加した。詳細は 2.4 を参照。

2.　活動内容

2.1 科学技術コミュニケーション研究室ゼミ

前期・後期ともに各 3 回（計 6 回）、ルポの素案を発表した。発表の機会ごとに 1 章分の素案を提示し、ゼミ参加者に感想や文章に関するアドバイスをいただいた。Google Document で共有してコメントも記載するシステムとしたため、フィードバックを文章の校正にそのまま生かせるのが便利であった。

反省点としては、ルポの内容と史実を分けて記載するなど、昨年からもらっていた助言を反映できなかったことがある。これに対しては、戦跡にまつわる戦史についてまとめられている『ガダルカナル島戦 80 年ガイドブック』（全国ソロモン会 2022）が非常に発行されており、参考文献として利用したい。また、後述する修了式ポスターセッションで、概観を整理することができたため、ゼミ発表毎に 1 章ずつ作成していくのではなく、章ごとの関係性など完成を意識して、できれば前期のうちに一度、全体を作成したい。そのためにも前期 3 度のゼミを有効活用できたらと考えている。

2.2 研修科自主中間発表

11 月に研修科の参加者 4 名で自主的な中間発表を行なった（図 1-3）。全体的には、2022 年度の研修科は、3 年目 1 名、2 年目 3 名の構成であったため、研修科の広報も兼ねた発表会を意識した。また、トピックの多様性と異なる場所（札幌、神奈川、北九州、マーシャル）に特徴があったため、そうした特徴が伝わるように工夫した。

図 1　中間発表　ラインアップ

個人の発表に関しては、現在ほぼ完成している三つの章の素案に参加者を誘導してコメントをもらえたらと考えていたが、結果的にコメントは 1 名からのみしか得られなかった。ゼミ以外で文章を読んでもらい、フィードバックを得ることの難しさを感じた。一方で、プレゼンテーションは Google Document を利用したため、YouTube や Google Photo との互換性が高く、資料に動画を組み込むなどを試みることができた。また、4 名全員が中間発表経験者であったため、コストがかからないように協力して準備ができた。

図 2　発表プレゼンテーション抜粋①

図 3　発表プレゼンテーション抜粋②

2.3 2022 年度修了式 ポスターセッション

修了式（北海道大学 CoSTEP 2023）では中間発表の反省から、文章よりもビジュアルに訴えるように写真を多用し（図 4）、フィードバックの仕組みもその場でコメントを付箋に残す形にした。また、章立てに沿ってルポの概観がわかるようにポスターを作成したため、自身の目指すルポの全体像を整理することができた。

フィードバックについては、日本の負の歴史にどう向き合うかという点と、不発弾が今なお現地に影響を与えている現状についてコメントが多かった（図 5-7）。本来、ルポを作成する目的に、太平洋戦争を通じた歴史的関係性という切り口をきっかけにソロモン諸島について関心を持ってほしいとの思いもあった。しかし、そうした狙いに沿った回答は得られなかったことから、よりそう人々についてきめ細やかに描写できていない点など今後どのように挽回するかは反省の余地を感じた。なお、ポスターセッションの現場には赴くことができなかったことから、研修科の同期やゼミの仲間に準備を助けてもらった。とてもありがたく、感謝したい。

図 4　発表ポスター

図 5　フィードバックの様子①

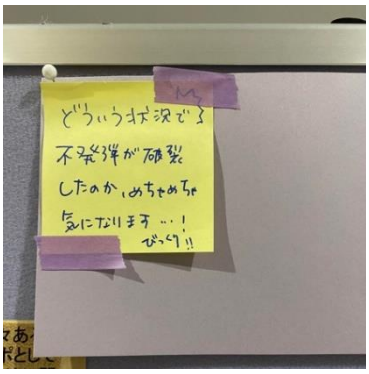

図 6　フィードバックの様子②

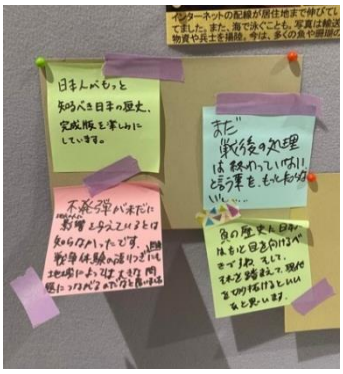

図 7　フィードバックの様子③

2.4 科学技術史特論

2022 年度前期の科学技術史特論に参加したことは研修科での新しい試みであった。滞在するマーシャルが時差で日本より 3 時間進んでいたことで授業に加わることが可能になった。授業には留学生も履修していたため、語学という自分の仕事の特殊性が生きたのは新鮮であった。また、CoSTEP に関わりながら、科学技術コミュニケーションに関する書物を精読したことがなかったため、課題図書の『我々みんなが科学の専門家なのか』H コリンズの輪読に加われたことは、本の読み方を再確認するためにも有益であった。さらに個人的なことであるが、イースト・アングリア大学で勉学に勤しんだ時期があったため、クライメイトゲート事件についての分析は興味深買った。また仕事で技術協力などの現場にも関わっていたため、暗黙知や専門知などの整理は専門用語の理解を深める上で勉強になった。加えて、同書に関するキーワード解説集（科学技術史特論 2022・川本思心編 2022）というアウトプットを行なったことも、同書の理解を深める上で有効であった。

3. まとめと展望

2022 年度 CoSTEP 研修科では、前年度に執筆した第 1 章に続く形で、第 2 章、第 3 章、第 4 章、第 5 章、第 7 章の素案を作成した。また、修了式で全体の構想を固めたところ、全体では 10 章とし、コラムもふたつほど設ける予定となっている。よって、手をつけていない章は第 6 章、第 8 章、第 9 章、第 10 章とコラムとなる。さらに過去に作成した素案も完成度は区々である。しかし、もし 2023 年度 CoSTEP 研修科を受講できることになった場合は 3 年目であるため基本的には最終年度となるため、完成に向けたスピードアップが求められる。幸い全体構想がある程度固まっており、1 章を書くのに必要な時間や段取りもこれまでの経験からわかるようになっている。従って、次年度で完成するために、前期の 3 度のゼミで一旦、全体を記載しきるようにしたい。その上で全体の推敲を行いつつ、最終的なアウトプットの検討や実現に向けた各所への許可（特に遺骨調査団）などの手続きを後期に行う必要があると考えている。CoSTEP 研修科の残りの期間を大事にしつつ、これまでに支えてくれて自身が現場で感じたことを読みたいと言ってくれたゼミの方々の期待に答えるためにも、イメージや計画を持って完成に向けてやりきりたいと考えている。

文献

北海道大学 CoSTEP 2023: 「2022CoSTEP 修了特別プログラムを開催しました」https://costep.open-ed.hokudai.ac.jp/news/26476 （2023 年 4 月 11 日閲覧）.

科学技術史特論 2022・川本思心編 2022: 『『我々みんなが科学の専門家なのか』キーワード解説集』http://hdl.handle.net/2115/86572 （2023 年 4 月 11 日閲覧）.

成田吉希・川本思心 2022: 「ルポ『ソロモン諸島：戦跡によりそう人々』執筆に向けて」『CoSTEP 研修科 年次報告書』6 (2), 1-7. http://hdl.handle.net/2115/84637（2023 年 4 月 11 日閲覧）.

全国ソロモン会 2022: 『ガダルカナル島戦 80 年ガイドブック』